

世界中から集まる学生と共に学ぶ日本一グローバルなキャンパスを持つAPU。今年度より新しく着任された先生方がAPUを訪問されました。「どんなことを学ぶの?」「どんな大学生活が送れるの?」などのAPUに関する素朴な疑問を中心に、先生方に語ってもらいましょう。

立命館中学校・高等学校 片上 直人 先生より

APUという名で親しまれている立命館アジア太平洋大学。この大学は日本で最も国際的な学生生活が送れる場所だと言っても、決して過言ではありません。およそ半分の学生・教員が外国人という珍しい環境の中、日本語と英語の両方で授業が行われています。また教室だけでなく、カフェテリア・広場など、どこにいても外国語（もちろん英語以外も）が聞こえてきます。そんなAPUは、ありとあらゆる言語・文化・生活習慣で溢れていて、まるで異国の地にいるかのような気分させてくれます。

今回のAPU研修で最も興味深かったプログラムは、やはり学生インタビューでした。様々な国から来た生徒たちの生の声を聞くことができ、大変貴重な時間となりました。中でも印象的だった言葉を紹介します。

「他の言語や文化を学ぶことはつまり、他者をリスペクトすることなんだ」

バングラデシュ出身の学生が話してくれました。18歳の若者が自分の目で見て、肌で感じて生まれた言葉だからこそ、何か特別な重みを感じます。APUが、単に言語や文化を学ぶだけでなく、相手を理解し尊敬できる「国境を越えた大学」であることを証明していると言えるでしょう。

また別の日本人学生の言葉を紹介します。

「APU独自の多文化共生の環境下で、自分が日本人であることのアイデンティティを再確認することができた」

彼女は、ただ他の文化を学ぶだけでなく、日本の文化や生活習慣についても深く知ることができたと言います。「国際理解教育」と聞くと異文化ばかり学ぶ印象を受けるかもしれませんが、しかし、実際に外国人と会話していると、あまりにも日本のことを知らない自分に気付かされます。日本人なのに...と恥ずかしくなることもしばしば。ますます進む国際社会で活躍するためにも、そんな人間にはなりたくありませんね。日本人である自分を再認識する素晴らしい環境が、ここにはあります。

あなたの夢は何ですか。その夢を、APUで実現させませんか。附属校からも、たくさんの生徒が入学されることを期待しています。



APU の魅力

今回、はじめて立命館アジア太平洋大学（以下 APU）に行って、その魅力を改めて感じました。私が思う魅力とは大きく 2 つあります。

まず一つ目は、よく知られているその国際色豊かな校風です。学生の約半数が国際学生なだけあって、キャンパス内を歩いていると、『小さな世界』を冒険しているような気分になります。そのような環境に身を置くことによって、学生は、実際に加速しているグローバル化社会に適切であろうコミュニケーション能力や積極性、柔軟性を身につけられるのではないかと思います。

二つ目は、寮制度と立地条件です。特に、国際学生と日本人学生が部屋を共有するルームシェアの制度は、単に大学生活を共に送るだけよりも、「お互いを知り、理解し、受け入れる」という国際理解において非常に重要なプロセスをしっかりと経ることができる取り組みであると考えました。同時に、大分県別府の山奥にある立地条件は、一見不便なようにも感じますが、この立地だからこそ学生が大学生活に集中し充実した活動を送ることができるのではないかと思います。町の中心地近隣に大学があるよりも、どの学生の関心も大学生活に向くという興味のベクトルの統一化が図れているのではないのでしょうか。私自身、大学生時代にアメリカへ留学した際、田舎地方の大学の寮で他の留学生たちと共に生活した経験がありますが、みんなが学生生活という同じことに焦点を当て、日夜とも一緒に過ごすことにより、学んだものはたくさんありました。教科書には載っていないリアルな文化や習慣、キレイごとだけでは済ますことはできない本音の議論が、勉学外の「暮らし」の面で起こる可能性は大変高いと思います。それを、この寮制度によって実現可能により近いものにしているのではないのでしょうか。

以上の点から、APU は大変魅力高い大学であると思います。けれども、APU に入ったからといって、上記のような素敵な大学生活が単純に送れるのかということ、そうではないようでした。学生の中には、せっかく APU に入ったけれど、国際交流ができないでいる、という不満や葛藤の声をあげている人もいたからです。食堂を見ればすぐにわかる学生内、人種間の分裂。「国際大学なんて、結局上辺だけなのでは？」と考える学生もいました。しかし、私はこれを決してマイナスに捉える必要はないと思います。この状況は、私がアメリカ留学のときに感じたものと全く同じだからです。その分裂こそ、世界の縮図と感じて正解でしょう。考えなければならないのは、「その時、自分はどう動くのか」です。それを真に考えることができ、自主的に取り組むことができる人材こそ、現社会が求めている人材だと認識しています。

日本にいながらにして、理想的な世界ではなく現実的な世界を直視することができ、そしてその状況に対して自分は何ができるのか、ということを考えることができる点で、APU という大学は、学生の積極性や創造力を鍛えることができる大学だと思います。そのためにも、「国際交流ができない」「話しかけてくれない」という受け身態勢ではなく、自分から行動を起こすという考え方を据えて勉強や課外活動に取り組むことが他よりも大きく期待されている大学だと思います。

世界で活躍できる人材になるために

今、グローバルな社会で必要とされている人材の1つに、多文化の人とのコミュニケーションが取れ、世界に自分の意見を発信していけるということがあります。このような人材になるためには、大学生のうちから、世界に目を向けていることが必要です。海外留学に行ったり、観光客に話しかけたりなど、いろいろな方法がありますが、その機会は限られています。しかし、APUには、世界およそ80もの国・地域から学生が集まり、学生の半数近くを留学生が占め、キャンパスを歩いているだけで、様々な国の人と出会うことができます。APUには、普段の日常から、世界に目を向けるチャンスがいたるところに転がっているのです。

教員研修で、APUについて知るために4月30日から2日間APUを訪れましたが、そのなかで、APUの学生にアンケートを取る機会がありました。ほんの1時間校内を歩いて、ランダムに声をかけただけで、8カ国の学生と話すことができ、APUの多文化・多国籍を肌で感じることができました。普通の大学や、日本の街中ではありえないことです。そして、どの学生も、見ず知らずの私と、気さくに話をしてくれました。もちろん授業でも、様々な国からの学生がクラスメイトとなってディスカッションをしたり、プレゼンテーションを作ったり、共に勉強していました。さまざまな国の学生が共に学んでいる姿は未来の社会を連想させました。ほかにも様々な国際交流の場がありましたが、その中でも、APUの寮（APハウス）がとても印象的でした。日本人学生は必ず海外学生とルームシェアし、海外学生との交流を手助けするシステムです。扉1枚ごとに、言葉も日本の常識も通じない学生が暮らしているのです。寮に住んでいた日本人学生の話から、授業という作られた時間だけでなく、何気ない生活の中から国際的に考えられるようになっていく様子を垣間見ることができました。また、寮では頻繁にイベントが行われ、寮生の交流がはかられています。文化交流やお花見、パーティーなど、写真を見るだけでも、寮生活の楽しさが伝わってきました。居住空間を共有した友人との絆は、大学生活だけのものとは比べものにならない強さだと思います。絆が深いからこそ、思いっきり議論ができます。そして、議論し尽くした上での互いの理解はとても深いものになります。

APUには、様々な国際交流の環境が整っています。しかし、その環境をどう活かすかは、本人次第です。最高の環境に身を置いたからと言って、チャンスが降ってくるというものではありません。チャンスは掴みにいくものです。ただ待っていれば、海外学生から声をかけてもらえるというものではないのです。自ら海外学生に声をかけ、友人を作り、文化や言語を超えて心を通わす努力をしていかなければなりません。APUでは、他の大学にいるよりは、行動を起こしやすい、そして、努力が実りやすい環境があります。その環境を活かし、世界に目を向けて、世界で活躍することを目指してください。

APU レポート

20年後の世界はどのようなになっているでしょうか。そしてその時代にはどのような人材が必要となっているのでしょうか。この問いの対する答えを導き出すヒントが立命館アジア太平洋大学にあります。

現在、政治・経済をはじめ様々な分野でグローバル化が加速度的に進展し、これまでのような大手企業や一部の業種だけではなく、様々な分野で外国語力が求められる時代になっており、その外国語力の有無が企業の採用や昇進など将来に大きな影響を与えています。



また、グローバル化に伴い、異なる文化・文明との共存や国際協力の必要性も増大しています。

一方、近年、海外へ留学する高校生や大学生は減少しており、日本の若者のいわゆる「内向き志向」が指摘されています。内向き志向は、必ずしも若者の志向のみに起因するものではなく様々な要因がありますが、世界的な競争と共生が進む現代社会で豊かな語学力を身につけて異文化体験を積み、国際社会で活躍する人材を育成することは極めて重要なことであるのは言うまでもありません。

APUはキャンパスそのものが国際社会となっており、異文化体験も可能な夢のような学習の場です。学生の45%が世界81カ国・地域から集まった国際学生で、日本語と英語の二言語で教育を行うことにより、画期的な多文化・多言語環境を実現しています。また、言語自主学习センターやAPUライブラリーのライティングセンターなど自主学习を支える施設も充実しています。

学生たちはそれだけにとどまらず、国内生67%、国外生65%もの学生が150団体からなる課外活動に参加していると同時に、学生寮APハウスで生活することにより、より濃密な異文化交流を体験し、学生間の心の国境を越えていきます。

そのような国際環境や充実した大学教育を兼ね備え、グローバル人材育成に力を注いでいるAPUに多くの企業が着目しており、就職率については今年、他大学と比べてもトップクラスの96.2%となっています。

学生達の生の声は力強く、APUという環境の中で自分自身のアイデンティティを確立し、常に世界を見据えて勉学に、そして課外活動に励んでいるようです。

21世紀の地球社会を展望するとき、APUの建学精神「自由・平和・人間性」が今後の教育のベースとなることは間違いありません。



APU レポート

この研修を通して、APU 立命館が世界に目を向け、また、世界からも注目をされているキャンパスであることを改めて知りました。

雄大なキャンパスの敷地、天候には恵まれませんでした。そののびやかさは決してその広さだけではなく、そこで学ぶ生徒たちのゆったりとしつつ国際色豊かな、日本にありながら、日本ではないような雰囲気のあるせりわけなのではないかと、感じました。

現在の世界は経済をはじめここ数年、混沌とした状況が続いています。そして若者たちはそんな混沌とした世界の中で、自らの生き方を決めていかなければならないのです。APU で私たちが目にした若者たちはアジア諸国を始め世界各国から集ってきており、そこでおののが世界を見据えて、今ここでしかできない教育を生き生きと受けていました。また、日本人の学生たちも積極的に課外活動を行うなど、これからの国際社会で求められる人材となるべく学研にそして自主活動に参加しているのをみて、これからの日本を背負って行く彼らをととても頼もしく感じました。

学生たちは臆することもなく、われわれ教員にプレゼンテーションを行い、キャンパスツアーでは的を得た説明を随所で行い、また、質問に答えるなど、勉強以外で学んできたことの多さとそのような能力をしっかりと身に着けていること、実践につなげていることが、就職率の高さにもつながっているのだと思いました。

また、APU ではそのような学生たちの日々を支える設備も充実しており、APU ハウス（これは悪天候のために見学はできませんでしたが）、カフェテリア、生協、そして各研修センターと図書館の充実の様には本当に驚き、またそこで真剣に自分の将来を見つめて学習に励む国内外の学生たちの姿に私たち教職につく者として背筋が伸びる気持ちがしました。

APU というユニークな教育を行う大学の存在をもっと国内外の学生たちに知ってもらい、国際社会を生きていく有能な人材を育ててほしいと思いました。そして、私たちもこの大分・別府の地に来て、すばらしい学習環境に触れることができたことに感謝します。

附属校生徒 9 名が APU で催されたオープンキャンパスに参加しました。「APU ならではの」のユニークな企画が満載のオープンキャンパスの様子を、引率で同行された一貫教育部・田中英章先生より紹介していただきます。他では体験できない、APU でしか味わえないオープンキャンパスを、是非みなさんも一度訪れ、「体感」してみたいかがでしょう。

APUオープンキャンパス「第2回附属校合同ツアー」

立命館アジア太平洋大学（以下 APU）が主催する「2012 年度第 1 回オープンキャンパス（5 月 3 日実施）」に参加するために企画された「附属校合同ツアー」に、宇治高校から高校 1 年生が 4 名（全員が高校からの入学生かつ SEL コース所属）と守山高校から高校 3 年生が 2 名、高校 2 年生が 3 名の計 9 名が参加しました。この企画の行程（5 月 2 日～4 日）の期間は、船中 2 泊、現地 1 日というかなりハードと思えるものでしたが、参加した生徒は「若さ」という武器のもと、疲れも見せずに難くこなしていました。



このツアーに参加する目的は、附属校生として進路選択の 1 つである APU を訪問し、「キャンパス見学」や「大学教授による模擬授業」を始めとする様々なプログラムに参加することで、APU の魅力を感じてもらうことにあります。また、APU という大学は直接訪問することで、パンフレットやホームページのみでは知り得ることのない多くのことに気づくことができる所です。また、APU は参加した生徒たちはもちろんですが、「百聞は一見に如かず」の言葉どおりのことを体感することができるキャンパスです。

その魅力溢れる APU キャンパスにおいて、生徒たちは次のようなさまざまな企画に積極的に参加していました。

【企画内容】

11 時 30 分からミレニアムホールにてオープニングセレモニーでもってスタートしました。そのセレモニーでは、学生団体である「APU サムルノリチーム」による韓国伝統楽器を用いたすばらしい演奏がありました。

13 時より APU 大学紹介、13 時 30 分より模擬授業として「中国語講座」、「人口 70 億人の地球 APU で世界の問題を考えよう」、「英語で授業を受けてみよう！ Globalization APU and JAPAN by アルカタ・ライニ先生」、「RA（寮生のリーダーズ）による APU ハウスの魅力についての話」などが実施されました。

学生スタッフによるキャンパス＆ハウス見学ツアーが実施されました。

生徒たちは、企画表の内容と時間帯を相互に見ながら、どの企画に参加して行こうか等を相談し合いながら、それぞれの企画会場へと散って行きました。



特別企画「附属校 OB との座談会」

特別企画の座談会は、立命館高校から A P U に進学した 2 名の先輩を交えて行われました。とても元気でユーモアあふれる先輩たちからの数々の失敗談や成功談をしっかりと傾聴していました。また、附属校生からは、大学生活における英語力を中心とした不安に関する質問などがあり、活発で有意義な座談会となりました。やはり年齢的にも近くて身近に感じる先輩学生たちとの懇談会はとても効果的であったと感じました。

私自身も APU が開学して以来、複数回訪れていますが、話で聞いたり、大学案内資料など見たりするだけでは伝わらない、素晴らしい魅力がキャンパス内のあちらこちらに転がっています。附属校生諸君！是非在学中に一度は訪問してみてください。

（一貫教育部副部長 田中 英章）

今後の APU 見学ツアーのご案内

立命館アジア太平洋大学（APU）が実施するオープンキャンパスへ、附属 4 高等学校から参加するツアーは今後、下記の日程で実施します。「世界へつながる道へ」。決断するのはあなたです。具体的な申込詳細は APU 通信にて改めてご案内します。

参加対象は高校生です

1．日程

2012 年 10 月 27 日（土）

2013 年 3 月 23 日（土）

2．費用

3,000 円（食費など個人的な費用を除く）

立命館慶祥の生徒は、大阪南港までの交通費として 2 万円を補助

3．引率

引率は学校法人立命館の担当教員・職員が行います

4．集合・解散場所

大阪南港コスモフェリーターミナル（ATC のりば）

5．備考

* 申込み方法や定員などのツアー詳細については、改めてご案内いたします。